

3. 史跡及びその周辺の現況調査

(1) 自然および社会的条件

1) 立地特性

平城宮跡は奈良市のほぼ中央、奈良盆地の北部に位置しており、南側を除く三方には丘陵地が広がっている。

特別史跡平城宮跡として昭和27年3月29日に指定された（大正11年10月3日史跡指定・昭和11年7月14日追加指定・昭和27年3月29日特別史跡指定・昭和40年6月14日追加指定）。エリアはほぼ方形で、東西約1,300m、南北約1,100mで、指定面積は約131haである。

近鉄奈良線大和西大寺駅と新大宮駅の間に位置し、最寄り駅の近鉄奈良線大和西大寺駅からは徒歩10分である。最寄りのバス停としては一般県道谷田奈良線において、西端から二条町、佐紀町、平城宮跡といった3つのバス停がある。

平城宮跡の出入り口は全部で15カ所あり、そのうち7カ所は車ででの出入りが可能となっており、うち4カ所が自動車駐車可能箇所が付属している。

周辺の土地利用としては、主に住宅地と農地であり、南側で一部、工業地がみられる。



図Ⅲ-1 平城宮跡周辺図

資料：都市地図「奈良市」（昭文社）

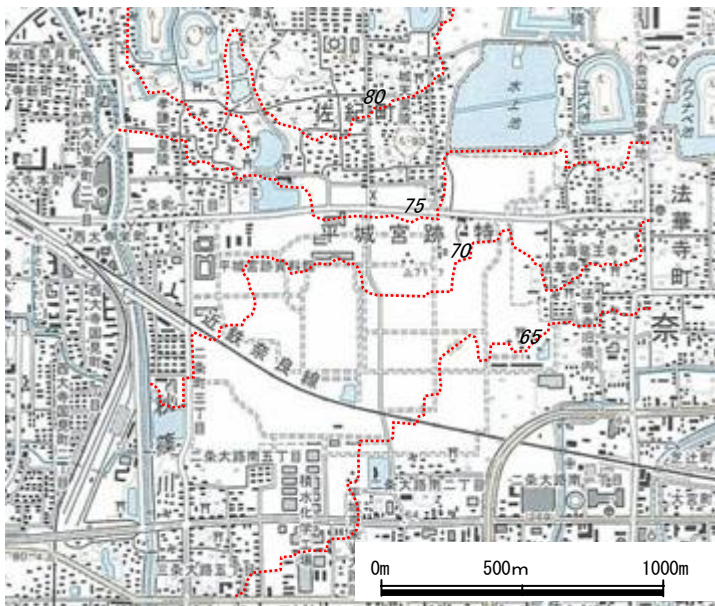
2) 自然特性

2-7) 地形・地質

宮跡は奈良盆地の北端に位置し、東、北、西側の背後地に丘陵地形を擁し、南側に平野が開けている。

宮跡内は概ね平坦であるが、北から南、西から東に向けての緩やかな傾斜がある。宮跡内の最高標高地点は史跡指定区域北端の佐紀神社近傍の集落域や水上池南西側で76m強あり、最も低いのは東院庭園周辺の62m前後であり、最大で15m近い高度差がみられる。

地質は領家花崗岩類を基盤岩とし、これを被って段丘堆積物や沖積層が分布しており、総じて南側ほど層厚が厚くなっており、平均では3~5m程度の被土となっている。



図Ⅲ-2 平城宮跡周辺の地形

資料：1:25,000 地形図「奈良市」(国土地理院)



図Ⅲ-3 奈良市北方の新世代層地質図

資料：「平城宮跡整備調査報告Ⅰ(S54.3)」(奈良国立文化財研究所)

2-1) 植生

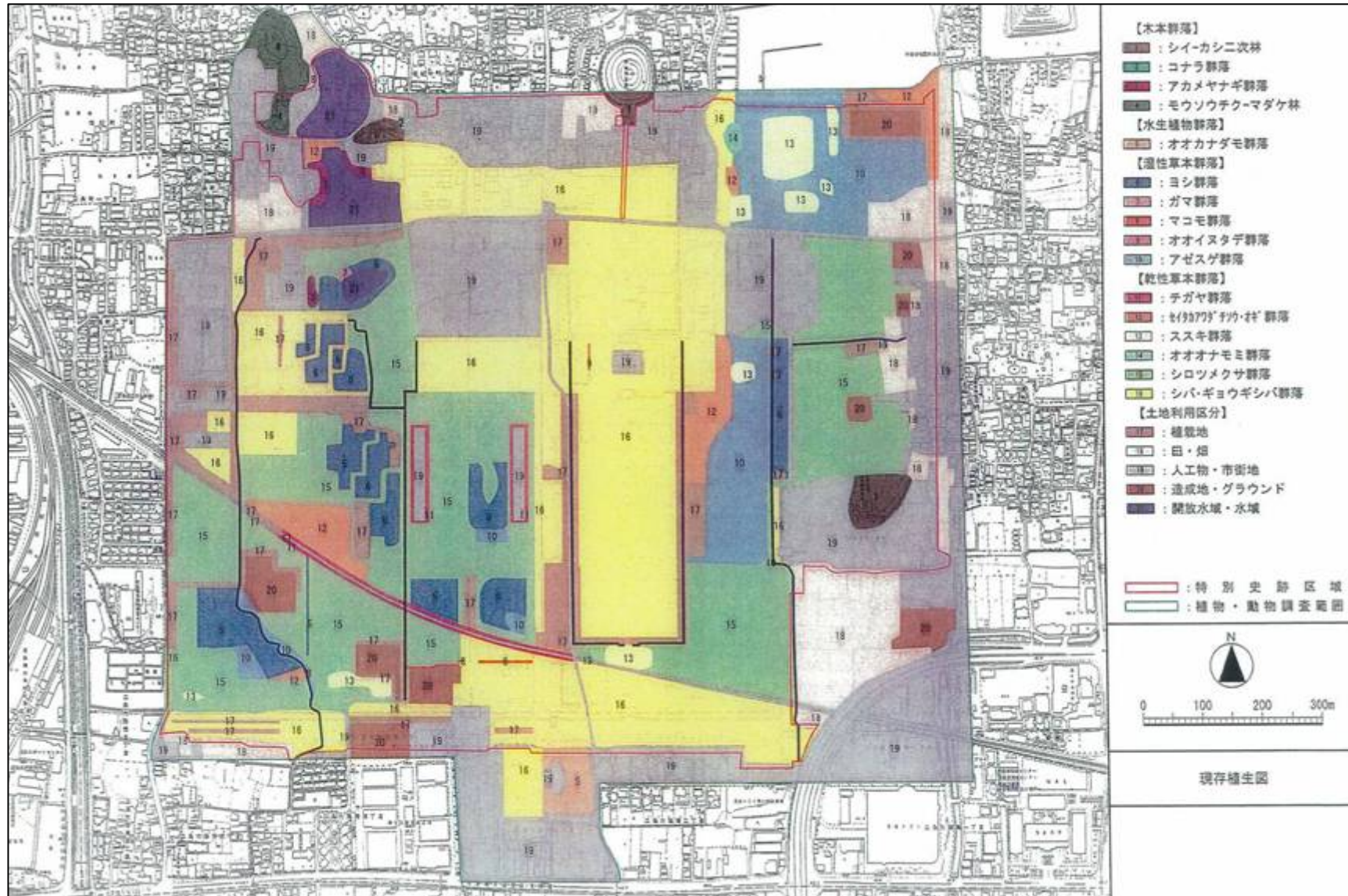
宮跡内のほとんどが以前は水田であったことから、自然植生はあまり見られない。

現植生の大部分は草本群落で、乾性植物群落、湿性植物群落と水生植物群落に分けられる。乾性植物群落は草刈り頻度の比較的低い場所ではセイタカアワダチソウやオギ、ススキなどの多年生草本が優占し、高い場所ではシロツメクサなどの低茎草本が優占し、線路沿いの土手ではチガヤ群落が分布する。湿性植物群落では、水路沿いでアゼスゲ、コウガイゼキショウなどの湿性植物が優占し、水路内、池の跡地などでは、ヨシ、マコモ、ガマ、オオイヌタデが分布する。水生植物群落については、シルクロード博記念館の大池でオオカナダモが優占する群落が発達している。

高木は、宇奈多利神社、佐紀神社の社叢林であるシイカシ二次林、平城宮資料館東側池のアカメヤナギ群落、佐紀神社北側の竹林、および御前池東側にコナラ群落があるのみで、ほとんど見られない。また、遺跡外周部およびみやと通り沿いなどにおいて、修景機能および外部の都市的活動から宮跡を保護するバッファとして、アラカシ、イチイ等の常緑広葉樹、コナラ、サクラ等の落葉広葉樹の植栽が行われている。



図Ⅲ-4 平城宮跡内の植生



図Ⅲ-5 現存植生図

資料：「平城宮跡の自然環境に関する調査概要について（案）」（平城遷都1300年記念事業協会）

2-ウ) 動物

○ほ乳類

「平城宮跡の自然環境等に関する調査報告書（平成 18 年 6 月）」によると、湿地や沼地を取餌の場として利用する傾向のあるタヌキ、イタチ属のほか、草地ではモグラ属の坑道、ネズミ類の巣穴などのフィールドサインが認められたが、全体としてほ乳類の生息している痕跡は少ない。また、宮跡内の湿地上を中心として、日没後多数のアブラコウモリの飛翔が確認された。

○鳥類

宮跡内の大半を占める休耕田的な湿性環境を含む草地環境ではヒバリ、キジ、ケリ、セッカ等の草地性の鳥類が優占的にみられる。また、遊歩道沿いについては、コナラ、エノキ、コジイ等の樹木を休息環境としているヒヨドリ、コムクドリ、モズ、ツグミ等がみられ、水路周辺ではセキレイ類が確認されている。

佐紀池の南側のヨシ原が池畔に繁茂する溜め池とその南側の湿草地環境は特筆すべき良好な環境であり、オオヨシキリ、セッカが多数繁殖し、バン、ムナグロ、コチドリ、アオサギ等水域性および、湿地性の鳥類が休息地および採餌場所として利用している。

○は虫類、両生類

クサガメ、ウシガエル、ヌマガエルが見られたのみで、種数、個体数とも極めて貧弱であるといえる。

これは、宮跡内の湿地や水路を取り巻く草地は何度も刈り込まれ管理されており、芝生に近い状態にあり、人工的な環境に囲まれた水辺となっていること、また、南側の池は既に水域が存在せず陸化が進行していることによると考えられる。

○昆虫類

草地環境の低茎草本により占められた乾性草地ではバッタ・キリギリス類、カメムシ、シジミチョウ、テントウムシ等が確認され、湿性草地ではトンボ類、バッタ、コガムシ、チビゲンゴロウ等が確認された。

ヨシ群落およびヤナギ等の灌木に囲まれた小規模な溜め池では、トンボ類のほか、ヤナギ群落に依存するコムラサキやスイカズラに依存するタテハチョウ類が確認され、やや安定した滞水を含んだ湿地環境ではハラビロトンボ、マツモムシ等が確認された。また、平城宮跡資料館東側と遺構展示場東側を南北に流れる水路では多数のヘイケボタルが確認された。

資料：「平城宮跡の自然環境等に関する調査報告書（平成 18 年 6 月）」

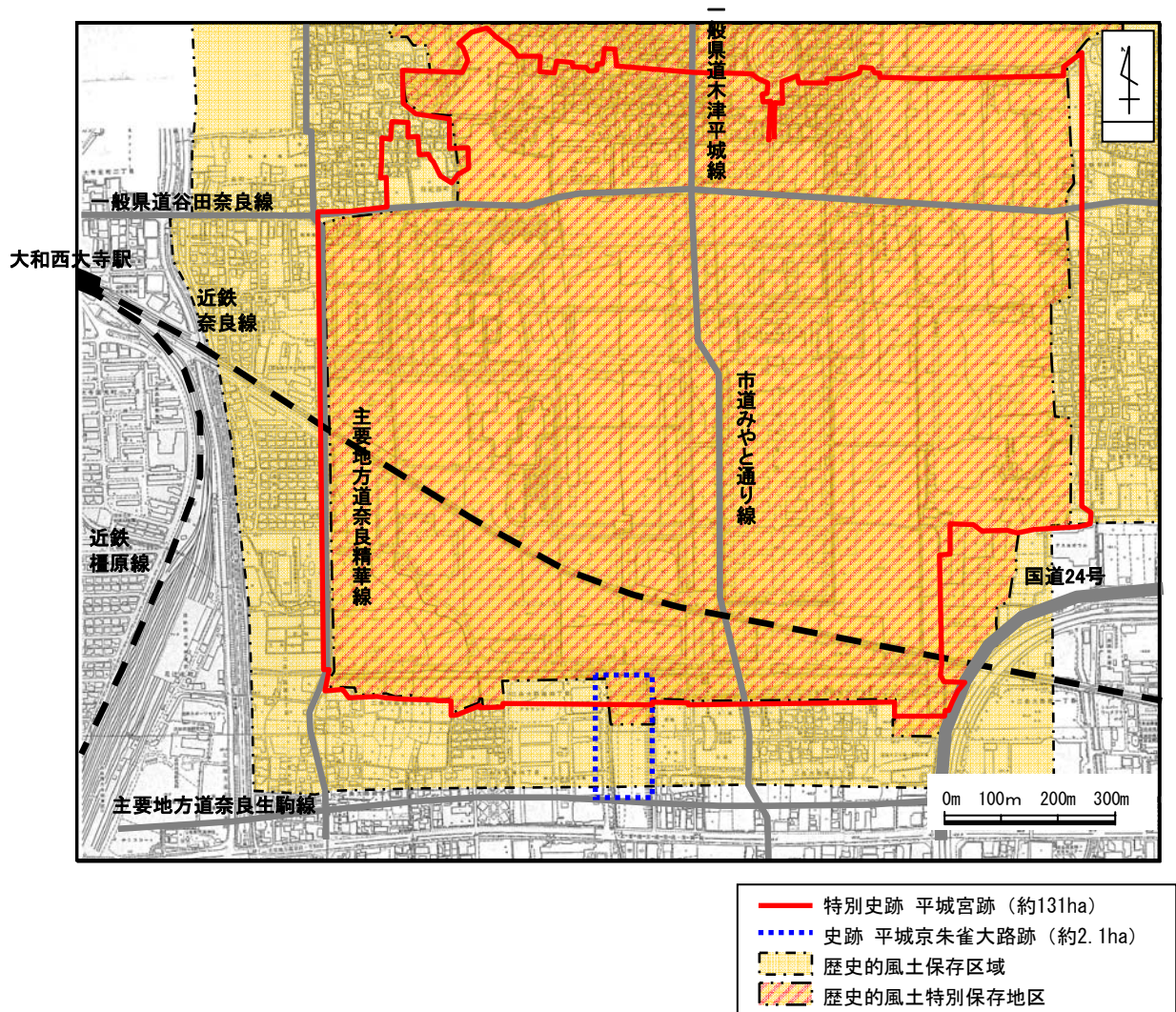
3) 社会特性

3-7) 法規制

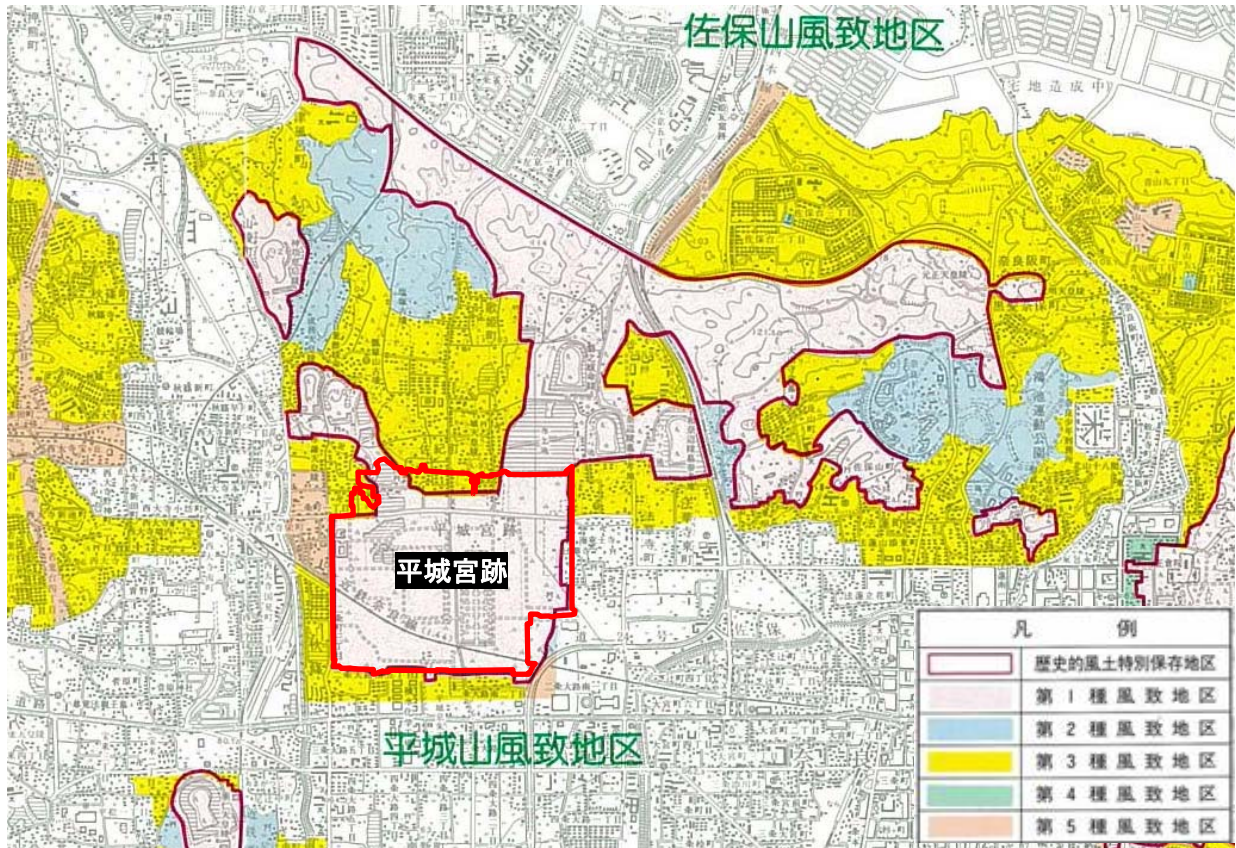
特別史跡指定のほか、「古都における歴史的風土の保存に関する特別措置法（古都保存法）」における歴史的風土特別保存地区「平城宮跡地区」に指定されており、また、奈良県風致地区条例における第1種風致地区「平城山風致地区」として指定されている。

特別史跡区域は大部分が市街化調整区域であるが、史跡指定地東端の集落の一部が市街化区域内の第1種住居専用地域になっている。

宮跡周辺の用途地域は、平城宮跡隣接部は第一種低層住居専用地域、第一種住居地域、第二種住居地域と住居系であるが、大和西大寺駅および新大宮駅の近鉄線両駅周辺は近隣商業地域である。

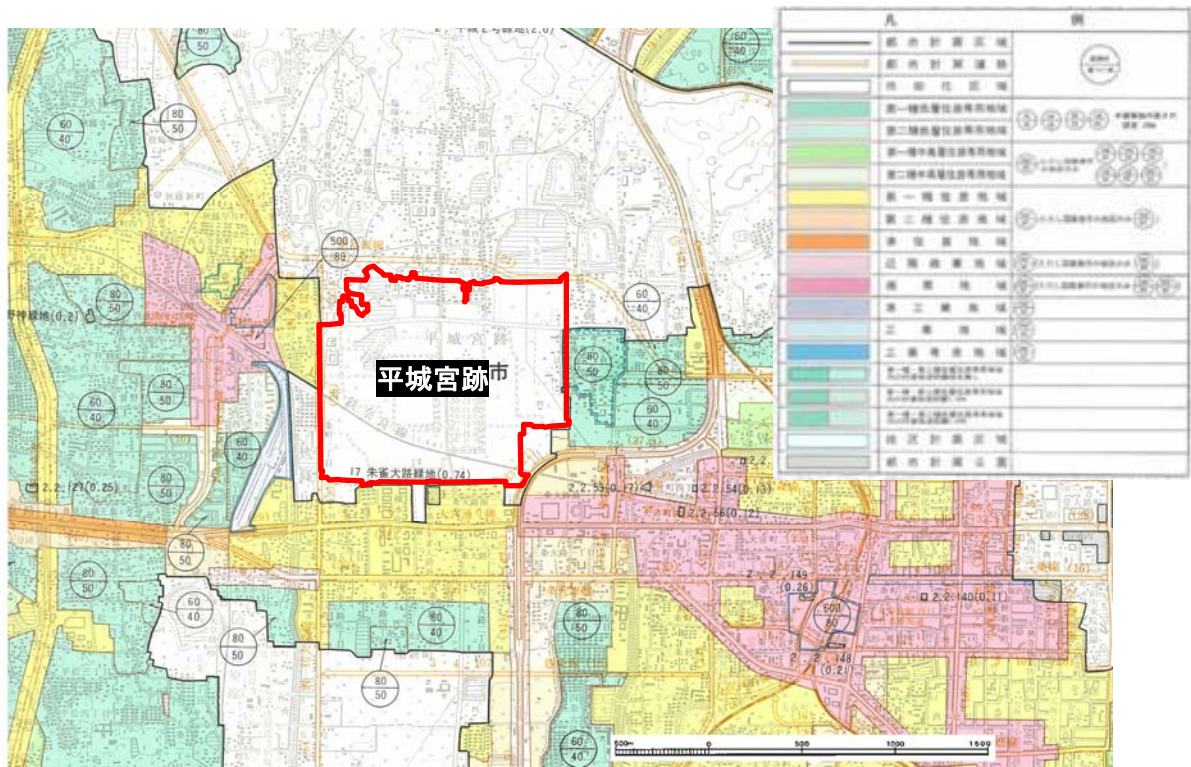


図Ⅲ-6 平城宮跡法規制状況図



図Ⅲ-7 奈良市域における風致地区指定状況

資料：パンフレット「風致地区のあらまし」（奈良県）



図Ⅲ-8 周辺用途地域図

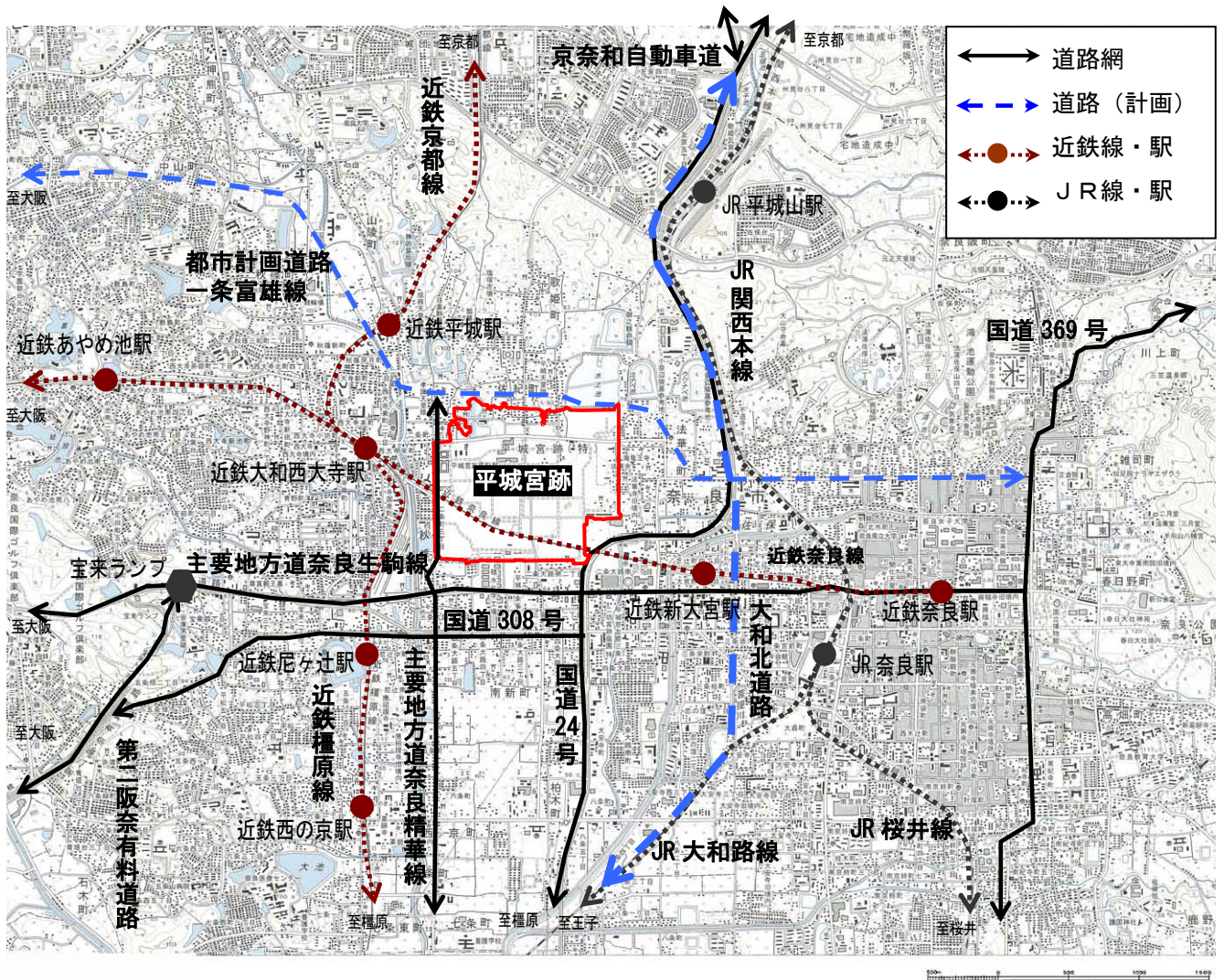
資料：奈良県都市計画総括図

3-1) 道路・交通

○道路体系

広域道路ネットワークとしては、宮跡の南側と東側に隣接して、大阪と奈良を結ぶ阪奈道路と、京都と奈良を結ぶ国道24号が通過している。また、鉄道は近鉄電車奈良線、京都線、橿原線のジャンクションとなる大和西大寺駅に近く、交通利便性は高いと言える。

宮跡周辺の道路体系としては、内裏の北側を一般県道矢田奈良線が東西に横切っており、南北には宮跡西端の奈良文化財研究所に隣接して主要地方道奈良精華線が通っているほか、宮跡のほぼ中央を市道みやと通り線（県道谷田奈良線より北側は一般県道木津平城線）が通っている。



図Ⅲ-9 広域道路・交通網図

○交通量

12時間自動車類交通量は、一般県道木津平城線で平日6,605台、休日4,248台で平日混雑度は1.07と1を上回っている（平成17年度交通センサス）。また、平成19年度に行われた方向別自動車交通量調査によると、みやと通り線で平日4,561台、休日4,568台、一般県道奈良精華線で平日5,949台、休日5,605台となっており、交通量は比較的多いといえる。

表Ⅲ-1 木津平城線 自動車交通量 (平成 17 年度)

観測地点名	調査単位 区間番号	管理区分	区間延長(Km)			平日 12 時間交通量(人・台)						平日 24 時間自動車類交通量(台)						
			区間延長	改良済み延長	自専道延長	調査実施地点	歩行者類	自転車類	動力付き二輪車類	自動車類	乗用車類			貨物車類			合計	
											乗用車	バス	計	小型貨物車	普通貨物車	計		
奈良市 佐紀東町	6133	県	3.3	2.8	.0	○	51	231	591	6605		6288	60	6348	1669	305	1974	8322

休日・自動車類交通量 (台)				昼夜率(%)		平日混雑度
調査実施地点	12 時間	調査実施地点	24 時間	平日	休日	

資料：平成 17 年度道路交通センサス一般交通量調査結果

表Ⅲ-2 奈良精華線およびみやと通り線 自動車交通量 (8:00-20:00)

	県道奈良精華線 (西大寺 1 号踏切)					市道みやと通り線 (西大寺 2 号踏切)				
	大型車	小型車	合計	大型車 混入率	二輪車	大型車	小型車	合計	大型車 混入率	二輪車
	(台)	(台)	(台)	(%)	(台)	(台)	(台)	(台)	(%)	(台)
平成 19 年 4 月 24 日 (火)	367	5582	5949	6.2	459	72	4489	4561	1.6	430
平成 19 年 5 月 13 日 (日)	50	5555	5605	0.9	374	25	4543	4568	0.5	405

資料：方向別自動車交通量調査



(宮跡周辺交通体系図および交通量観測地点図)

○公共交通

宮跡内を東西に横断する近鉄電車の1時間当たりの最多走行本数は、奈良方面で16本、難波方面で14本となっている。土日祝日では、2方面をあわせると7時から22時までで1時間あたり20本以上が通過しており、9時と15時にはもっとも多く1時間あたり27本が通過している。

宮跡内の踏切は2カ所で、一般県道奈良精華線を横断する「西大寺1号踏切」と、市道みやと通り線を横断する「西大寺2号踏切」である。平成19年に実施された歩行者交通量調査によると、西大寺1号踏切では、平日、休日とも歩行者500人程度、自転車500～550台程度となっている。西大寺2号踏切では、自転車は平日、休日とも600～700台程度であるが、歩行者は平日200人程度に対し、休日では550人程度と、平日と休日では通過量に違いがある。

表Ⅲ-3 踏切における歩行者交通量（8:00～20:00）

	県道奈良精華線（西大寺1号踏切）				市道みやと通り線（西大寺2号踏切）			
	歩行者 （人）	自転車 （台）	車いす （台）	合計	歩行者 （人）	自転車 （台）	車いす （台）	合計
平成19年 4月24日（火）	487	488	0	975	185	605	0	790
平成19年 5月13日（日）	482	552	0	1,034	549	677	7	1,233

資料：歩行者交通量調査

平城宮跡最寄りのバス停としては、宮跡北側の一般県道矢田奈良線に位置する「二条町」「佐紀町」「平城宮跡」と、南側の主要地方道奈良生駒線に位置する「二条大路南五丁目」「二条大路南四丁目」「二条大路南二丁目」がある。

3-ウ) 歴史文化、観光資源

平城宮跡は8世紀初めに遷都した後、都市としての形態を整え、その後大社寺を中心に繁栄したことから、数多くの歴史上重要な文化的資産が残されている。1954年以来、奈文研による組織的な発掘調査が続けられて、貴族の邸宅や役人、庶民の住まい等の遺跡や銭貨や木簡などのさまざまな遺物が発見され、その建物跡を基壇や遺構表示木で示したり、遺物を展示していることで、多くの歴史愛好家が訪れるところとなっている。

宮跡における主な観光スポットとしては、展示施設として発掘調査により出土した遺物や建物の復原模型を展示しながら平城宮跡をわかりやすく説明する「平城宮跡資料館」と、発掘調査で見つかった遺構をそのまま見ることができる「遺構展示館」のほか、1998年に建物が復原された平城宮の正門「朱雀門」、奈良時代の庭園跡として池を中心に橋や周囲の建物を復原した「東院庭園」がある。

奈良市では一般的に、主要な観光レクリエーション資源・施設の分布を奈良公園・高畑、ならまち、平城山・佐保・佐紀路、西ノ京、西奈良、南奈良、柳生・滝坂の路の7つに区分さして表現している。平城宮跡は、平城山・佐保・佐紀路を代表する観光レクリエーション施設であり、周辺には秋篠寺、法華寺、海龍王寺のほか、古墳や天皇陵なども存在している。

奈良県観光情報で紹介されている観光おすすめコースでは、平城宮跡は「佐保路・平城めぐり」(5時間)に位置づけられている。また、民間バス会社の観光バスルートにも組み込まれており、奈良交通では定期観光バスルート「世界遺産コース 法隆寺・西の京周辺」「ライトアップ薬師寺(8月)」に取り上げられているが、いずれも朱雀門のみの見学や車窓からの見学となっている。



図Ⅲ-10 奈良市観光マップ(平城宮跡周辺のみ)

資料：奈良市観光協会、各寺の解説は奈良県観光情報HP「大和路アーカイブ」より作成